21世紀の選択

伊藤秀五郎

原始時代の人類にとっては、地上の空間は無限大に近いものであり、自然もまた無尽蔵と考えられていた。近代の航海術が発達し、世界各地に人間の自由な交通が可能となったころにも、まだ世界は際限なく広いというのが通念であった。

しかし今日では、ボールディングのいうように地球は有限の緑の宇宙船であり、その自然も無尽蔵ではないことが明らかになった。そして生物界と無機界とは、長い地質時代を経て生成された、均衡のとれた生態系を形づくっていることが明らかにされている。水も、空気も、土壌も、あらゆる資源も無尽蔵ではなく、有限なものであり、その自然の均衡を保つためには、無際限に拡大しようとする破壊を防止する手段を講ずることが必要不可欠となってきた。

今日のように自然破壊や公害が進行する時代には、その破壊が極限まで進んで人類の生存そのものが危い状態になるはるか以前に、湿原のようないわゆる不毛の土地さえも、開発という見地からの経済効果ばかりでなく、もう一つ高い次元での、自然の人間生活に対する効用を再考してみる必要がでてきたのである。おそらく、今日の人類ほど、科学とともに哲学を必要とする時代はない。

戦争か平和かという、人類の古い課題も未解決であるが、二十一世紀には人類はそれよりもさらに重大な問題の選択を迫られるであろうからである。

（北海道自然保護協会理事）